

氏名 佐 藤 哲 也

授与した学位 博 士

専攻分野の名称 医 学

学位授与番号 博 乙 第 2768 号

学位授与の日付 平成 6 年 6 月 30 日

学位授与の要件 博士の学位論文提出者

(学位規則第 4 条第 2 項該当)

学位論文題目 MRIによる肥大型心筋症の局所左室壁収縮動態の評価

論文審査委員 教授 菅 弘之 教授 佐野 俊二 教授 平木 祥夫

学 位 論 文 内 容 の 要 旨

肥大型心筋症 (HCM) における局所左室壁収縮動態を評価するために, シネMRIを用いて, 局所壁厚増加率 (%WT) 及び局所面積変化率 (%AR) について検討した。対象は健常者23名 (G1) 及びHCM患者40名 (G2) である。2断面の左室短軸像 (心基部, 心尖部) を得た後, それぞれを 5 等分し拡張末期像と収縮末期像より各部位での %WT 及び %AR を求めた。G1 において部位別の %WT, %AR を比較検討すると, 部位による違いを認めなかったものの, 各部位において心尖部の方が心基部よりも大きい傾向を認めた。G2 を拡張末期壁厚により $\leq 12\text{mm}$ (G2a), $12\text{mm} < \leq 15\text{mm}$ (G2b), $> 15\text{mm}$ (G2c) の 3 群に分類すると, 両断面において %WT 及び %AR は G2a で最も大きく, G2c で最も小さかった。以上より, 健常者では心筋長の短縮率は心基部より心尖部で大きいこと, HCM においては壁肥厚に伴い局所左室壁収縮能は低下し, 肥厚を認めない部位では代償的に機能が亢進することが示唆された。

論 文 審 査 の 結 果 の 要 旨

本研究は循環器内科領域における心機能評価についての臨床研究であるが, シネMRIを用いて, 肥大型心筋症 (HCM) の局所左室壁収縮動態を, 健常者との比較で検討したものである。その結果重要な知見を得たものとして価値ある業績であると認めた。

よって, 本研究者は博士 (医学) の学位を得る資格があると認める。